

倭漢朗詠集

卷上

310-103



X

外箱あり

310
103



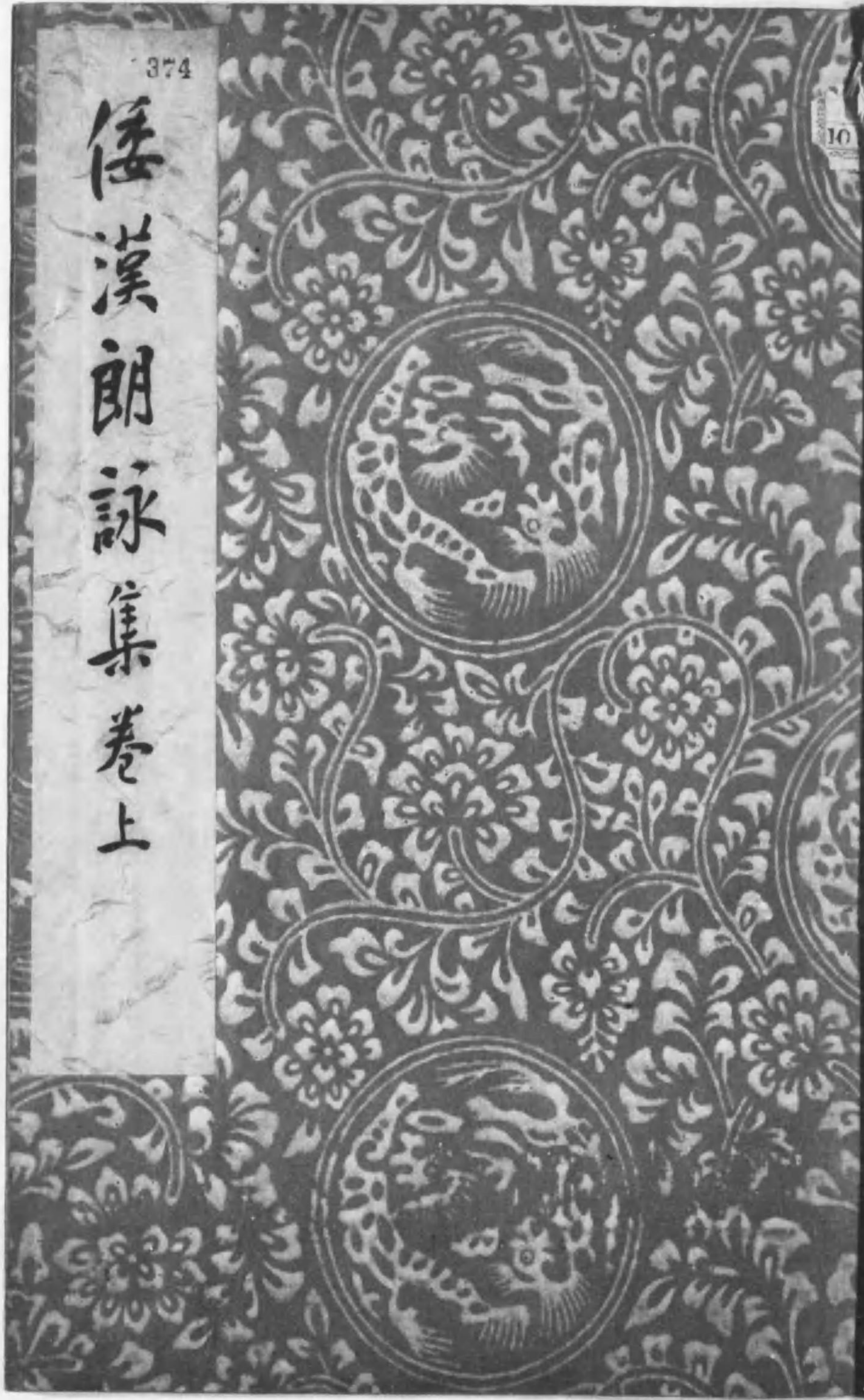
始



374

倭漢朗詠集卷上

10



倭漢朗詠集卷上

春

立春 早春 春興 春夜 子日付若 三月三日

暮春 三月盡 閏三月 鶯 霞 雨 梅付紅

柳 花付落 躑躅 藤 款冬

夏

310
102

秋

更衣 首夏 夏夜 端午 納涼 晚

花橘 迎 郭公 螢 蟬

立秋 早秋 七夕 秋興 秋晚 秋夜

八月十五夜付月 九月付菊 九月盡 女郎花 萩

蘭 槿 前栽 紅葉付落 鷹付歸鷹

鹿 露 霧 禱衣

冬

初冬 冬夜 歲暮 爐火 霜

水 付春水

雪 霰 佛名

春

立春

逐吹清井不待芳菲之候 逐春

夏物希而露之思

立春日内園
進花賦

池凍東頭風度解忘梅北面雪封寒

春

かうらにさるはよふなりひと

柳至氣力條先動池有波文水盡開
 今日不知誰計會春風喜水一時來
 夜向殘更寒磬盡春生香火曉爐燃
 少下以ちくむもひーみけの

早春
 氷消田地蘆錐短春入枝條柳眼促
 先遣和風報消息續教啼鳥說來由
 東岸西岸之柳遲速不同南枝小枝

早春
 氷消田地蘆錐短春入枝條柳眼促
 先遣和風報消息續教啼鳥說來由
 東岸西岸之柳遲速不同南枝小枝

野草芳菲紅錦地 遊絲碎亂曉風輕
 牙酒家、花裏、是也、一管、紅、上、初、春、日
 山桃、及、野、桃、日、暎、紅、錦、之、幅、門、柳、及
 岸、柳、風、兒、鞠、蒼、之、兒、色、更、花、は、な、
 若、野、屋、敷、紅、錦、彌、當、天、遊、絲、絲、不、離、結、野、
 林中、花、錦、時、其、落、天、外、遊、絲、或、有、母、母、

笙歌夜月歌、思、初、酒、春、風、更、し、情、
 色、一、ま、の、木、が、名、も、い、ま、は、あ、れ、
 や、せ、う、う、つ、さ、し、て、け、し、し、く、
 け、る、も、い、ほ、ま、れ、う、わ、わ、い、う、の、
 わ、い、う、の、と、な、ま、い、と、は、あ、う、
あ、う、

春夜

背燭共憐深夜月 澹花同惜少年春
白
さうらのよれやみはあやうしむあ
いさうのよれやみはあやうしむあ

子日

倚松樹以摩腰習風霜之雜犯也和菜
羹而安口期氣味之克調也 常

倚松樹以摩腰習風霜之雜犯也和菜
羹而安口期氣味之克調也 常

わはさるまよひうらてよまらつよわ
ちとせうくちうらてよまらつよわ
こらちのうらてよまらつよわ

神のひらにーめつるけつひのひめこまら
ひつてやちよのけをまたにひーほ正

若菜

野中若菜世事推之蕙心鑪下和

羨俗人属之羨指菅

あまつらはわのけつあせしにた

あつれあだのきらはもふやうめら
こらたいはわのけつあせしにめいれ
よまのふもふまゆいひわつ、素人
ゆいみね人も一れとまらめれ
うまよつめらわのけつわたり舞

三月三日 付 梔

春來遍是桃花水不辨仙源何處尋
春之暮月々之三朝天醉于花桃李
感也我后一日之澤万機之餘曲水雖
遙遺塵雖絕書巴字而知地勢思魏文
以翫風流蓋志之所之謹上小序
煇夜亭上應同戶桃李淺深似勸盃

水成巴字初三日源起周年後幾霜

礙石遲來心竊待幸流過手先遮

夜雨偷濕曾波之眼新嬌曉風緩吹不

言之口先咲

みちとせにならうといふも、れ、よ、よ
わさしとくけうよあひわめよわ

萬茂

雅規

桃始華賦
死

暮春

拂水柳花千万點隔樓鶯舌兩三聲
但翅沙鷗潮落曉亂絲野馬草深春
人無更少時須惜年不常春酒莫空
劉白若知今日好應言此處不言何

いふらよをくはつるははたほれ

いふらよをくはつるははたほれ

三月盡

留春、不住春歸人、寄溪、賦、風、不

定風起花蕭索

竹院、君、困、銷、永、日、花、子、我、醉、送、殘、春

惆悵、春、歸、留、不、得、些、藤、花、下、漸、黃、昏

送春不用動舟車唯別殘鷺與落花菅

若使韶光知我意今宵旅宿在詩家同上

留春不用買城園花落隨風香入雲尊教

けりとのりともをわらわはるるよ

しとわさきさののりか冬形似

さゆもあてりわらわはゆるもよ

せと... ちよりわらわは

またも... ありんとも...
あはれをさくもあつる

同三月

今年同在春三月刺見金陵一月花唐竹所

歸谿秋鷺更逗面於孤雲く踏碎

林舞蝶逐翩翩於一月之花順

異氣の終混就冷血澄く体曉啼
 遊嬉之神經收精控乳於室栢周即
 之音頻動取百突於神也 普三
 新詠如今案有音彦有ぬ及不喜雲 普
 為梅月落む百中夜燈殊於裏音 普三
 あらじまのぞーちーあーしよわま

たうしものほうんまのこゑ 普性
 あてみきりもろたうきらにうま 普
 れらふこゑまたわひはあ 普
 うらひまのこゑのうらひまはゆ 普
 わ 中務

霞

霧光暝は夜に火を晴来映以烟
糝沙草只三系許誇樹裏殘半如餘
時り亦どけりけりけりけりけり
うそみのわまたにもわもまたにもわ
はるうほみそそわいほこみよりの
よりのやまたにゆよはわわつ

あそひせんうぶのーらゆーこらこら
さるあーもみはるやうもんにわあそ

雨

或垂花下潜増曇子之悲時舞鬢間
晴動潘郎之思
長樂鐘聲花外盡龍池柳色雨中深

李橋

養得自為花父母洗朱寧并樂君臣紀
 花新開日初陽洞鳥老歸時薄暮陰首三
 斜脚暖風先扇雪暗香初日上晴程隴
さうらうのわあめけしわさねたけく
 にあつとくまふのふたにふれむ
 あまやこのうにうれつそらせめは

いととしてわらうたふりともみろ 伊勢

梅

白斤落梅浮洞水黄梢新柳出城牆白
 梅花带雪飞五上柳色和烟入酒中章孝標
 渐薰脱雪新村裏偷绽春風未扇先村上
 青丝绿出陶门柳白玉装成庾嶺梅以相公

五嶺蒼々雲從來但憐大庾万株梅

誰之春色從東到露暖南枝花始開

普三六

いとうとまはらうにうきやわらふあわ

いよものむけはしとよにせりり 安徳彦庭

わつやいよみまむとあうひしものいよま

そはせんもほゆいのかれを素人

いよまやういれまらとあむいめれをいあ

やうやうみたきしとく 下 形恒

紅梅

梅含鷄舌魚紅氣江天瓊花帶碧文 元

淺紅鮮娟仙方之雪媿之深香芳郁

妓鏡之煥讓羞 正通

有色易不殘雪底無情難計夕陽中 中五二

雲拳紅鏡扶素日春嬌黃珠嫩柳屋
 誓宅迎晴庭月暗陸池逐日水煙深
 潭心月泛交枝桂岸口風來混菜蘋
 あまやまのいどよわうらうけりし
 雨そよほしてはなはなうらひなる
 ころろとてをーうわあうまよけよまふと

けいものしんよたうわよなう
 あまやまのいどよわうらうけりし
 うらうよいんうそわける
 中納言
 並補

花 付落花

花明上宛輕軒馳九陌之塵猿叫空山
 斜月暈子巖之路
 雨賦

池色溶々藍染水花光焰々火燒春白
遙見人家花便入不論貴賤與親疎白
當日當風高似子顯方影之玉液枝
液浪表裏一入再入之紅在光陰水上
音三心
誰謂水無心浩蕩隨之波更色色淫淫
花不語狂漾激兮影動脣月上

欲謂之水則漢女施粉之鏡清靈多
得之花亦蜀人濯文之錦榮輝同上
珠自何珠唯言為裁世之極任春風音三心
花飛如錦幾落粧殘表春風未與相
相殘春風襟上巧北唯珠之殘素芳音的
眩矣蜀那裁珠耳博素襟調素筆相規

世中たらしく横たふりわきはしの
うはのこころまじく

初や東は若柳みよとら仁らる人ぬ

地まふ世も乃とふ恋く永る通死形恒

みよのまや人よりきらむ山横と

とこにまわし人いさひとよりまはまは

落花

落花不语是舞榭流水无心自入池白

胡语落花相伴出言危死多一时悔白

去却面々东入酣暢之筵晚言愁

殊集津浦之座江

落花犹藉风狂夜啼鸟就寝而打时江

経弓風細良穂舞、に梅娃神所此境 昔
科之舞ちるあはしくきりつ梅はせし
つあらまにらんきつ社ね雪亦ふまを
ふもりのときれふる侍にあらはの
いそむもあまよすあまれ

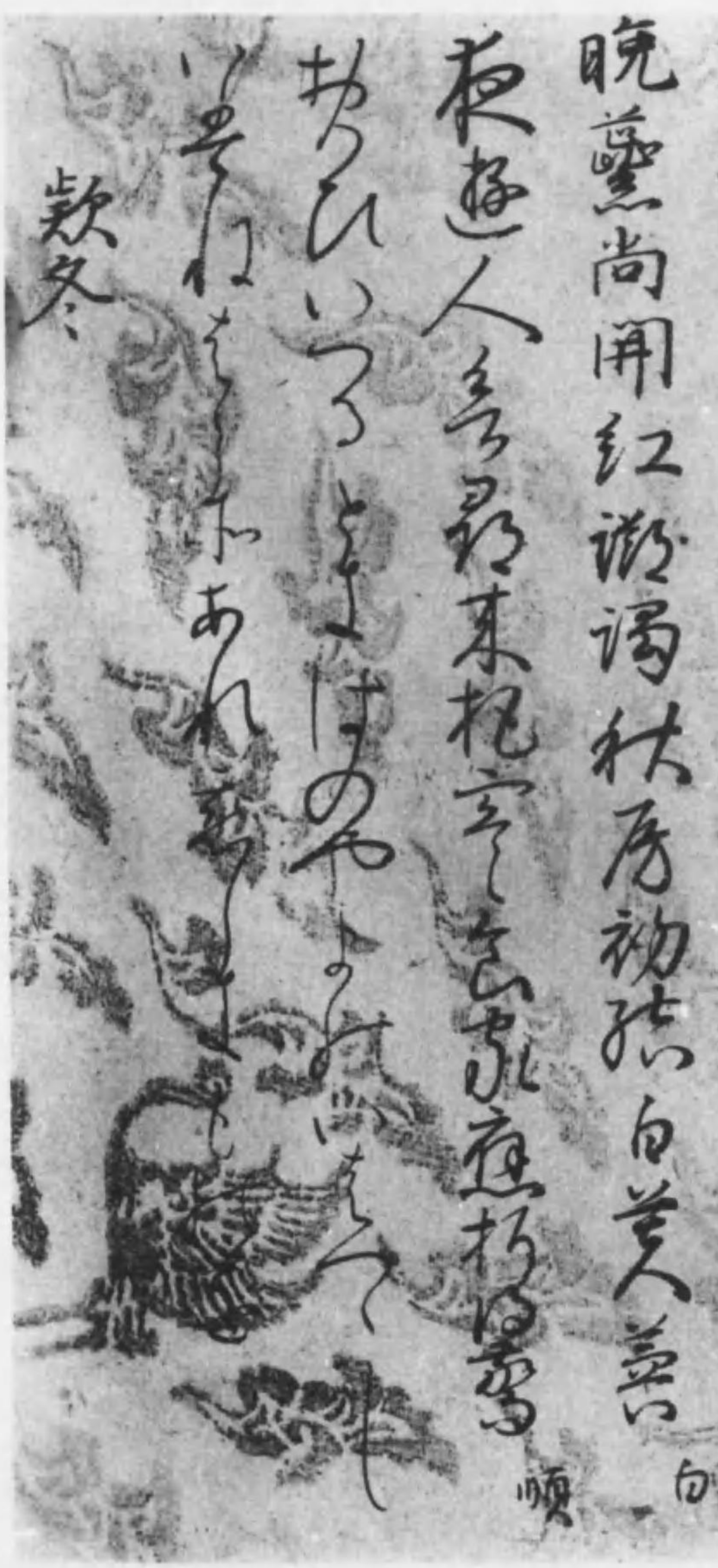
藤

恆望あはれ三月盡紫藤花落を哭く 白
紫藤露塵跡をくまふ竹橋中を言ふ 相見

たのうらにそくせんしあふちれし
とそいでゆむくわひあまの 梅丸
あまはなるるはめはらそまあやれく
し、はらふちのあまてちるふれ 梅丸

躑躅

晚臺尚用紅游渴林房初結白芝人善
 夜遊人多尋來把字忘此在極白芝
 坊已いりてまよはけのちよひに
 いそねもあれあれ



歎冬
 順

點着時英天有意歎冬誤院言去風
 書之志有春相收檢詔帛無文未奉行

ふけりくみれひうまにふみり
 いふちらさしやまのま
 わるよおの山はけひとふちり
 道春

たづなよにらん　とみゆふこのまに　順

夏夜

風吹枯木晴天雨月照平沙夜夜露白

風生竹夜言言月照松叶露白

きねの言困言言及は涼更杯白月月初白

たづの言をゆわよあるねとよいおとす

ひとはものさや　松もはさるる

かともほなまや　てらよのみし

とひとや　やまあ？かほつと丸

程者乃とみ者あ　東は吾は本度

いふかぬ知る心　をゆ急下　阿をる

と乃、免

端午

有時當戶危身立無意故園任脚行友人
わつこまをけふよあひこつあやめりて
たひおろるやちうるたふふん頼基
まけふまけふよあひこつあやめりて
けしわゆるこのけまをみりて能宣

納涼

青苔地上銷殘雨綠樹陰前逐晚涼白
露華清露色夜清風襟着灑先秋涼白
不是祿房無契到但此心却良身涼白
斑蟊好周香之扇代岸風之長
忘燕昭王招涼之珠當沙月之自得白

仰見新面臨水障り今未系納涼納
池冷水無三伏夏松島風有一等秋
すしやとらせむらとらむらよれ
はあつてふあつてふとらむらよれ
ひたうらつみらにあよふとらむらよれ
むきふいつものてとらむらよれ
中務

まはるのいもわれみはむすむす
たういさういさういさういさうい
しむら

晩夏

竹亭陰合偏つと夏水檻風涼不待結
いつこはらあつてふとらむらよれ
つむらつはたつむらよれ

さよふけてほそあせりややはり
ひとつとまゝに水やうろつり
あはれ 忠見

螢

螢火乱花秋正
辰星早没夜初長
元
葭水暗螢
夜楊柳風高
鴈送秋
許渾
明
仍在誰
退月光
於屋上
皓不消

豈積雪片於床頭

秋螢照供賦
紀

山径卷裏疑過岫
海賦篇中似宿流

月前
直接

らさうそあれはるや
けうせにようはは
はくめんかろわねもの
のよふとあまれふ
なりわ

蝉

遅くも春日玉梵暖く温泉溢嬌く

夕秋風山蝉鳴る宮樹紅悪字云

小峯多詠合梅雨五月蝉あり送る秋字嘉秋

多下彌葉素莖守蝉鳴る紫澄字秋許傳

く多きも係待先師ふ是蝉也家意此此

歳を歳未聴不夏莫言秋枝逆るをこれ

たか作や一よのこはのこすきや一こくれを

あらもあさみのこももよこる

れをみよひともとつめわいひすをこれ

をれもやのたけれるもよこる重光大卿

扇

秋

立秋

蕭颯涼風与悴鬢誰教計會一時秋白
鷄漸散同秋色少鯉常歸多晚秋後胤
あよ、ねとめまはてや、ににみくわとと
うせのたともおたとも、れわろ 敏行
うもはなよもの、おえり、まよ、のをも
るあよ、れき、めた、なりわと、あつて

早秋

但喜暑随三伏去不知秋送二毛来白
槐花雨淫新秋地桐架风凉多夜白
炎景剩残衣尚重晓凉倍多菊先知化
あよ、もて、い、う、も、あ、り、な、み、わ、る
え、さ、の、さ、は、て、い、と、も、し、ま、あ、り、

七夕

憶得少年長乞巧竹竿頭上願絲多白

二星遙逢未叙別緒依之恨五文物

明頻驚涼風飒之聲兼材

露在別後珠也之落也殘粧驛歲首

風從此夜聲跡惡露及明朝後不紫

古衣曳浪露夜漏り燭淚深月多清首三

詞地激波陸且迷心期り月多わ婦轉

あまのつはとほろふわらひあはれ

もよみいさしはぐまよふあはれ

ひとせにひもこたしとよれきた

れあひみもあはれいわがよふあはれ

うらやまにあらはすれとふれをた
のわろよれをふすれをわろ
秋興

秋興

林石煖酒燒紅葉石上頻詩梅綠苦
楚里眇茫雲水冷高亭清脫苦
大庭四時心物苦就中腸斷是秋天

物色自堪傷客意宜將愁字作秋心
由来感思在秋天多被當時苦物辜
才一倚心何處新竹風鳴紫月明
蜀茶漸忘浮花味楚珠新傳橘香
うらやまにあらはすれとふれをた
のわろよれをふすれをわろ
丹比園人

あよけのほゆふまれふあうた
うらやまよふ
義孝の

秋晚

相思夕上松臺立蒼思蟬聲滿耳秋白
望山出月猶藏影聽砌花泉轉倍多
音三
ふくもやまふもよのつたさしす

ほのろみゆふあよれゆふれ

秋夜

秋夜長くして眠天不明聴し残燈背
聲影着く暗る打窓声
上陽人
遅く鐘漏初長夜耿と星河光曙天
白
鷺子橋中露月夜秋来只為一人長
白

善学露凉人言は流音をまじりて
 並陸洲裏船舟夢柳柳学以万里心
 あひまのわらわりのをわらわりの
 ながいしよさしよさしよさしよ
 むけいともまたつまひらうあふふり
 つらまあよれわらわらわらわら
 影恒

十五夜 付月

秦旬之一千餘里凍と氷鋪漢家之三
 十子子澄し粉餅
 疎鉢機中己羅お思く字橋衣砧上縁
 流烈列くきり 二上子夜地
 三子夜中新月色二子星かあ人心

嵩山表裏千重雪洛水高低兩顆珠
十二迴中無勝於此夕之好千万里外
皆爭於吾家之光紀

碧浪金波三五初秋風計會似空虛白
自疑荷葉凝霜早人導蘆花遇雨餘
岸白還迷松上鶴潭黠可與藻中魚

瑤池便是尋常号此夜清光玉不如河漢
今膏一滴秋風露玉匣三更冷漢雲營三
揚貴妃歸唐帝由來夫人去漢皇情吹
みつれにたもたてらるるをうそ
少はるゝはひふあやふもたつらひなる

月

誰人隴外久征戎何處庭前新別離
 秋水浩未似去連夜雲收盡月仍遲
 不醉黔中爭去得磨圍山月正蒼白
 天山不并何年雪合浦忽迷舊日珠
 欲和豐嶺鐘聲否共奈蕭蕭野色何
 卿凌毅行征戎客棹歌一曲釣漁舟

野展野
 白
 統理年
 中書王
 侯胤

あまみくらかりまけみれきすのり
 ここのやうにぞうつとせ
 せいのもよもはうらたけとあわの
 うけとみゆるあまののり
 よよあねものたふらとあられと
 こつとにいもひなりあつらん

安の仲丸
 はやま

九日 付菊

驚知社日辭菓古菊為重陽冒雨用
採故事於漢武則赤萸插宮人之衣
意此於秘文之黃花助彭祖之術
先三逐芳吹其花如曉星之轉河漢引
十分芳滿玉新疑秋香之迴洛川
李端

谷水洗花汲下流而得上壽者三千餘
家地脈和味食日精而延年頹者五百
箇歲 已上紀

わろろのよきものから流りけよと
よいことたよりけふちよなるらん 中務

菊

霜送老鬚三分白露菊新花一半黃 白
 不是花中偏愛菊此花開後更無花 元
 嵐法多言契相板之及凋枯葉子楊
 朝芝葉之先級 此詩
 起孫村園皆泥屋陶家兒子不垂堂 善相公
 葉竟自懸如依青梅結不似多毛生 伴流

葉意苑嵐權紫紅葉葉洞月照露中 善三六
 ひていりあもむれうらみくもくは
 あまのけいふあまたれをふ 敏行
 ころあやにまはなをむけうもの
 ばきあもむれ 躬恒

九月盡

縦以峭函為固難苗蒿翠於雲衢縱令
 孟賁而追何處爽賴於風境順
 頭目縱隨禪客乞以秋施与太應難順
 文峯紫壘白駒景詞海艤舟紅葉聲三
 下焉てこひーあよともまよわとつらつら
 もとよしのたににおくあきしと東

ろれてゆくあよれたよれとも
 してまわつともゆひのーもまよありな東

女郎花

花色如蒸栗俗呼為女郎同名戲
 乞契借老乞乞表亦首以霜順
 ちみちうーたかろたかふつ東

たらしまたにみづくあそいげのきぬ
あわ、ほをれよちるあーとあうん
くまいとそん花はいうみうらむ道にる

前栽

多見栽花悦日傳先時勝善待并延
自多困守家侍侍春栽秋子秋昔三三

困思表油花紅日正是當五鬚白時保胤
昔此種更思元亮ゆ是花時竹也善
ちりをたにすうーと赤木もふうし
ふわよ。わのむるこいひつのをれ躬桓
はのよよわものよあふしうゆれ木
うたしこいひたうらむすまむ

紅葉

不堪紅葉青苔地又是涼風言為元
黃纈纈林空有紫碧琉璃水淨無風
洞中清淺琉璃水庭上蒼條鈔彌林
外物初醒松澗色餘波合力鈔以
一らつゆ也

落葉

三秋而言漏正長空階雨滴万里而鄉
何在落葉忘涼
愁賦

城柳宮槐漫搖落愁思不到美人心
秋庭不掃携藤杖因踏梧桐黃葉行
梧楸影中一聲之兩空溪鷓胡背上數
片之紅纒殘
順
樵蕨往及杖穿朱買臣之衣隱逸優遊
履踏葛稚仙之藥
落葉山中踏
想也

逐夜光多吳苑月每初夜少溪林風
隨風落葉含蕭瑟賤名飛泉與稚仙
あはれはしむらけなつてかたきよはや
可のちよりそよよとふり
今丸
ふみかたきよはや
りれこのちよりそよよとふり

みづみづとひるやうにわづらわすれ
ももももけいりあうりよとわづらわすれ

鷹 付 歸 鷹

万里人南去 三秋鷹北飛 不知何歲月
得与汝同歸 文選

尋陽江色潮添滿 彭蠡秋聲鷹引來 初名陽

四五原山粧 雨色兩三行 鷹點雲 秋 杜荀鶴

虛弓誰避未 拋疑於上弦 之月懸 夜

箭可連 稻米流於下 流之水 急 白相公

鷹飛碧落書 青紙 年 曉 霜 林 破 鏡 採 昔

雲衣花外 鷲中 贈 凡 檣 滿 湘 浪 上 舟 江中

あふりのせよけつゝかぬふよふなる

うつたよもさうけてさくしむお

山腰婦鷹斜牽帯水面新虹未展巾 あや

さうろくはみしつをみすていゆくうわ

は、いしとてとにすみわたりん 伊勢

出

切く暗窓下要く深草中秋天思婦心

雨夜愁人耳 白

霜子欲枯虫思若凡枝あし香栴 白

床煙短脇養糸雨壁然也心流孔雀 明

山館雨时鸟自暗野亭凡支残栴 在并

藜邊忍遠凡雨暗壁底吟出月色寒 収

いよむさうれたののくもあまのよまあ

うがねつ、まっしーのぬく
ぢま、あ、ま、久、か、き、あ、あ、あ
乃、信、難、六、母、之、は、ま、あ、に、未
科、社、を、ま、性

鹿

蒼苔路滑僧婦寺紅葉お、乾若左林

温庭坊

暗遣食革身色寝更随加草徳風来

白鹿
紀

もみちをねぶ、けのや、
はあ、れ、あ、ま、
ゆ、あ、は、ら、ま、さ、ら、の、
れ、ま、の、う、ら、ま、や、あ、は、ら、ま、

露

可憐九月初三夜露似高珠月似弓白
露滴葉葉寒玉白風銜松葉雅翠清若
ていそーのあさよつをのあよそよに
しよとみろあてたさうしらつゆ秋持

霧

竹霧曉靄銜嶺月嶺風緩送過江去白

陸愁夕霧埋人枕猶愛胡雪出馬鞍白相云
うけりりのよもことわろあけしものれハ
あらよそあはれやまはとまけける涼き又
たるよあれうしよとあれらつあよりの
のやうつをしろうそらむ友別

橋

八月九月正長夜千聲万聲無了時白
 北斗星前橫猿鷹南樓月下橋空不
 橋更曉然望月谷裁物秋也其
 裁出子迷也其然定不若獨周亦
 風底者花菱袖第月有林忽有肩位何
 多：子思亦秋為衣出亦曉程上月

うらゝんもいけり
 みよるはゆき

冬 初冬

十月江南天氣存可憐冬景似春華白

ゆきよしきさしどしあすのれあすのい
みうけとくまわれわとあつた

爐火

芙蓉醜綠醜途冬勢絳怯紅爐通夜耳
表三望了れ三望腕裏風光被たる色
此大の意讚花樹取對未終和有まほ
同上

多時縱醉尋花下近日那能默炭色
うつみひの
もくくにくあつしちり下わひし
捕眼
若平

霜

万物秋霜能壞色四時冬日露凋年
三秋岸雪花初白一夜林霜紫若紅
温庭筠

筆言し音亦さるる法既極之砒上山涼感
 動先使回皓之續色青女可書
 君子夜涼音不整老翁年晚續相驚昔
 夜已新華言新步し初亦萬福人昔
 晨積瓦海碧交色夜寒華表語香存凡
 ようとせむしうはてあやとるはるし下

夕けけひしあははしやれくし

雪

曉入果王之苑雪滿群山夜登庾公之
 梅月明之室白賦
 銀河沙漲三千里梅嶺花柳一萬株白
 雪以香毛飛散乳人披新氈毛立徘徊白

氷 付春氷

氷封水面同無浪雪踏林只見雪花
霜妨鶴渡空無落水結松疑為水相如
松ほ氷らのつよれひわれまじわれ
けつなみしもつおまふこほりなつ
氷消見水多た地雪雪望山雪入梅

氷消漢之應物霜雪染玉不石枝
胡塞誰能全使節呼池還恐失臣忠
たまのけのみよちまをれりもつせま
こもれいほりはけつあとうらむ

霰

摩牙米散おろし腕龍頷珠投顆し寒菅

とや海よりけあられ少く程く
東和の...
川より...

佛名

香火一炷燈一盞白双夜礼佛名經
香自禪心三用大也并合孝子因是

河原堂満乃東く母久る香は香
久里け母は清美毛流有程有奈
本の家
うみわれまわ。みまはもつぎ
つよまはたうりむうみまはしよい平
くくむ

倚溪抄卷上



310

103

製本控 何部 號

310 冊 103 號 年 月 日

書名 傷漢朝新法 (卷上)

著者 〃

交入 年 月 日

備考 〃

昭和十九年二月十五日初版印刷
昭和十九年二月二十日初版發行

(三五〇部) 印刷部
定價 每冊五錢
合計金額 六圓四角五分

(出版文化協會・員登簿番號一四〇二四番)

東京都京橋區本橋町一丁目二番地

發行所 廣 瀬 保 吉

東京都下谷區中根町七二番地

印刷所 武 田 基 一

東京都京橋區本橋町一丁目二番地

發行所 廣 瀬 保 吉

東京都神田區淡路町二丁目九番地

配給元 日本出版配給株式會社

出版會承認
丁48116號

不
許
製

終